

第2号議案 令和2年度事業計画の件

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

【基本方針】

八王子市は市の基本構想・計画「八王子ビジョン2022」において「みんなで担う公共と協働のまち」を都市像の一つとしています。中間支援団体としての八王子市民活動協議会は、地域で活動する団体や市民をサポートすることで地域の活性化を図り、八王子の持続可能な発展に寄与することを活動の目的としています。まさに「みんなで公共を担う」ための担い手づくりや「協働のまち」づくり実現のために、会員の皆さまや多くの市民活動団体、市民の皆さまとともに活動しております。そして今年度もそれに寄与する事業計画を掲げました。

また、2015年に国連が採択した、国際社会を平和と幸せな安定したものにするために、全世界で2030年までに取り組む「持続可能な開発目標:Sustainable Development Goals」=SDGsの取り組みが全国的に推奨されています。協議会もこのSDGsを意識した計画にしていきます。SDGsは世界が幸福に向けて持続可能に発展していくために定められた17の目標と169のターゲットがありますが、この地球規模の目標を実現するためには国際機関や国ごとの取り組みでは不十分です。地方も、地域も、個人もワンチームで取り組むことが求められています。この17の目標に協議会としてもコミットしていくことは、私たちの幸福に繋がるものであり、協議会の活動目的にも合致するものです。

令和2年度の活動計画としては、「みんなで担う公共と協働のまち」をベースにSDGs実現を意識した活動に取り組むことで、みんなが生きがいを持って生き生きと生活できる環境を市民活動という手段で実現できるように取り組んでいきます。

このように新年度に向けて多くの活動計画を掲げている協議会ですが、現在、世界中で猛威をふるうコロナウィルスの感染拡大予防のための取り組みも大きな課題となっています。予定した事業が予定通りに行えるのかは現時点では不確定であることも付け加えなければなりません。しかし、このような状況だからこそ協議会が取り組まなければならないことがあると思います。状況をしっかりと見据え、今できることに臨機応変に対応していく年になるだろうと思います。

具体的な活動計画は以下に詳細を掲載します。

◆新型コロナウイルス感染拡大予防対策関連の取り組み

- ①外出自粛要請により、支援センターも会議室の貸し出しを制限する場合があります。このような状況では会合が持てない活動団体も多くあります。ZOOMなどのテレ会議の紹介など。
- ②コロナウィルス関連で活動が制限されるNPOに向けた、有益な情報などを発信していきます。

【1】協議会の活動計画概要

1. 支援センターの管理運営

今年度は八王子市から八王子市民活動支援センターの指定管理受託10年契約の10年目を迎えます。八王子市が掲げる市民力・地域力による協働のまちづくりをより一層推進するために、今年度は従来の事業連携部を改組して地域・事業連携部と改名して、NPO八王子会議とNPOフェスティバルをセンター事業に加え、協議会とも一体となって実施する計画です。

八王子市との事業受託契約更新期も近づいており、次の体制への取り組み方について研究すべく新しくプロジェクトも立ち上げます。

2. はちおうじ志民塾の運営

平成25年度より第5期から市より受託している「はちおうじ市民塾」については12期目を迎え、新たなステ

ージへと入ってまいりました。理事や卒塾生、各団体、協議会ならではの人脈とチームワーク力を発揮し、受講生の満足を得られるよう企画運営していきます。

3. 自主事業の運営

協議会の自主事業としては下記の方針で進めてまいります。

(1) 従来業務・イベント等の推進

各部および特別プロジェクトで実施しているイベントや企画は、それぞれの部会を通じて継続して実施します。年度途中の事業の実施、終了等は理事会にて討議の上決定いたします。各部の今年度計画の詳細は後掲しています。

実行委員会方式で進めている「わくわく広場」、「お父さんお帰りなさいパーティー」については、従来通り主体団体として活動の推進を図ります。オトパについては、今年度早期に実行委員会を開催し、新名称の検討や内容の見直しを行う予定です。今後とも協議会自主事業の位置づけで、様々な広報を駆使して広く多様な参加者を募り、新装オトパの定着を図ってまいります。

また、昨年度は、新たにNPO フェスティバルをJR八王子駅南口のサザンスカイトワー東側広場において、協議会が実施・運営主体として実施いたしました。参加団体は31団体にのぼり、八王子の市民活動を広く市民の皆様へアピールすることができ、参加者や参加団体から高い評価を得ました。今年度は、フェスティバルのアピール効果をさらに発揮できるよう実施時期や内容の検討を行い、八王子市民と市民団体との交流の場としての確立を目指してまいります。

地域ネット部の取り組みでは、自治研センターとの協働で「共助のまちづくりシンポジウム」の開催をはじめとして、八王子ビジョン 2022×SDGsとその先を見据えた長期的展望で八王子の未来像について、検討してまいります。

人生100年時代といわれる今日、シニアの就業や地域貢献を兼ねた起業などにも関心が高まっています。協議会では「女性・若者・シニア創業サポート」事業において、創業セミナーや説明会の回数を増やすなど、今年度はさらに力を注いでいく予定です。また、事業計画の個別相談や伴走支援などにも、昨年に増した体制を整えます。これにより、シニアはもとより女性、若者の活力を地域に呼び込みたいと考えています。

(2) 会員の協議会活動への参画促進

「協議会便り」を送付するときに、会員団体の情報紙なども同封し情報発信の一つとして団体会員様に活用していただいています。

これからの会員増、諸活動の活性化を考えると具体的成果につながるような会員の活動参画や関係諸団体の協力が不可欠であり、今後とも様々な企画を実施して行きたいと思えます。各部会やプロジェクトの活動を推進していく中で、それぞれが工夫を凝らし、実現に向けて最大限の努力を致します。

(3) 新規事業

今年度は支援センターの次期指定管理者の更改を念頭に、センターの新規事業である市民活動団体交流会に関して、協議会が実施・運営主体として行ってまいります。また、協議会の独自事業としては、街づくり活性化を目的とした新規事業の計画の検討、試行などを目指してまいります。

4. 会議運営

(1) 理事会・三役会

①三役会は、理事会の2週前に開催し、各部門の進捗・問題点、協議会共通事項に関して検討し粗整理し、理事会提案事項を審議します。

②基本的に月1回理事会を開催します。可能な限り議事案および関連資料を事前にデータで理事に送付し、目を通していただくことを前提とし、報告はポイントに絞り、検討事項・意見交換時間を確保していきます。

③8月、12月には研修会を開催し、協議会定款、規約類の勉強、当年度事業の検討・意見交換を行います。

す。

(2) 企画運営会議

四半期毎に1回モニタリングの後に、企画運営会議を開催し、モニタリングの結果の報告を受けて、今後の支援センターを効果的に運営していくための企画や提案を討議致します。今年度の前半は指定管理更新を見据えた支援センター企画会議と合同の開催となります。

【2】各事業の今年度計画

1. 支援センター事業

◆八王子市市民活動支援センター事業基本方針

八王子市市民活動支援センターは、これまでも地域参加のきっかけづくりや多様な分野の市民活動団体の基盤強化や信頼性、継続性をサポートする事業を行い、地域活動の担い手である市民への利便性を提供してきました。

今年度も平成30年度後期に設定した、ビジョン「私たち一人ひとりがつながって、夢をカタチにできる八王子」を掲げ、多様な市民や団体との連携と協働により、様々な事業をとおして、引続き自立した市民力、地域力向上のお手伝いを行い、市民あるいは市民団体が公益的あるいは社会貢献的な活動に参画する豊かな市民社会の構築をめざしていきます。

◆重点目標

- ①市民、NPO、地縁組織、大学、企業、行政等多様なセクターとの協働・連携をとおして、地域を包括的に支える環境、ネットワークづくりをサポートします。
- ②八王子コミュニティ活動応援サイト「はちコミねっと」の利用を促進し、地域力、市民力向上のお手伝いをします。
- ③NPO活動の基盤強化や信頼性向上を目的とした「NPOパワーアップ講座」や地域資源である「人財」と団体活動とのマッチング等によりNPOが社会を支える環境づくりを目指します。
- ④モニタリングやアンケートを活かし、社会ニーズに沿ったサービスを提供します。
- ⑤当該年度事業を「評価」と「課題」で検証し、次年度事業計画に活かします。
- ⑥スタッフの教育研修により人材育成に努めるとともに、センター事業に多様な意見を取り入れるため外部スタッフの参加を積極的に推進します。
- ⑦市民活動支援センターの認知度をさらに高めるとともに利用しやすい環境づくりを進めます。
- ⑧市民活動支援センター施設利用者の利用満足度の向上と安心安全の維持に努めます。
- ⑨業務の改善と効率的運営で経費の節減に努めます。

(1) 企画運営会議

原則として四半期毎に1回、企画運営会議を開催し、効果的な事業推進を討議し、市民活動を取り巻くニーズに対応した中長期的、未来志向で支援センターの運営について協議します。

(2) 情報セキュリティ委員会

個人や団体の情報を預かる支援センターは、その情報の保護管理に大きな責任があるとの認識から、支援センター個人情報保護方針に基づき、情報セキュリティ委員会を定期的で開催します。

また、監査人による監査で適正な情報管理のチェックを受けると共に、スタッフを対象にした教育研修会を実施し、法令及び支援センター情報セキュリティ管理マニュアル等の遵守を徹底します。

(3) 八王子市環境マネジメントシステムへの対応

八王子市役所環境マネジメントシステムへの対応として、それぞれの部門や事業が環境配慮行動に取り組むとともに、支援センターの特性である団体活動サポートや様々な事業を通して環境マネジメントに取り組んでいきます。具体的な取り組み方法として、PC 電力削減、エアコン電力削減、未使用の部屋の消灯の徹底等について取り組みます。

(4) 相談事業

相談業務は相談者に寄り添い、受け止めることをモットーに対応します。

相談対応は様々な知識、経験、コーディネート能力が求められるため、外部研修への積極的な参加、多様な団体との交流を通し、スタッフのレベル向上に努め、会計、財務、労務、税務等の専門的相談に対応し、行政書士、税理士など専門家による相談も行っています。また、分野や課題を特定した相談会の開催も検討します。

(5) NPOの基盤強化支援の充実

団体の基盤強化、信頼性の向上は市民活動が活性化し、社会的認知を高めるためには避けて通れず、その自立支援を強化します。具体的には団体運営の基本（ミッション、運営、情報発信、会計等）である実務能力向上のための講座の充実やファンド事業での「物品」や「人財」による支援で団体の運営をサポートします。

(6) 新規事業への取り組み

従来行ってきた事業に加えて、市民活動のより一層の広がりを目的として、中央地区以外での出張支所の開設を試行します。具体的には南大沢地区での試行を検討し、当センターへの呼び水としたいと考えています。

また、市民活動団体、公益的団体等のさまざまなセクターと市民が参加する交流会の開催を企画します。これにより、中間支援センターとして、協働のきっかけづくりの場を提供します。さらに、市内のNPO団体の活動を紹介する冊子「NPOハンドブック」を作成し、市民が団体情報を手軽に知ることができるようにします。

(7) 調査・研究事業

中間支援施設として、ニーズと期待に対応したサービス向上のため、開催する諸講座の「参加者アンケート」、「利用者満足度調査」、モニタリング結果等を検証し、具体的事業の効果的推進に活かします。

(8) 施設の運営及び安全、危機管理体制

施設利用満足度の向上を目的に、清掃、照明、空調などの利用環境の適正管理に努めます。また、多数の市民や団体の方々に利用頂いていることから、ビル管理会社と連携し、消防法に定められた自衛消防訓練への参加や防火上必要な教育研修等への参加及び緊急連絡網の整備により、危機管理能力を高め施設利用者の安全安心の確保に努めます。

(9) モニタリングへの取り組み

「協定内容の履行を確保し、市民に対して質の高いサービスの提供を実現するため」に行われているモニタリングへの取組みは、協定事業の遂行とともに、独自計画を付加した年度事業計画の効果的推進により、利用者評価に耐えうる施設運営、サービス提供に努めます。また、評価結果はこれを真摯に受け止め、スタッフで共有し、事業運営に活かします。

(10) 支援センター認知度や利用率の向上

支援センターを「知ってもらう」、「来てもらう」、「利用してもらう」を目的に、支援センター

内の各部門が連携し、さらに多くの市民や団体にその存在をアピールしていきます。

(11) 総務部計画

- ①令和2年度事業報告書作成
- ②適正な文書管理
- ③施設管理（付帯施設・機器・物品の管理、整備）
- ④経理処理（給与計算・会計管理・物品購入・支払業務）
- ⑤スタッフ出退勤管理
- ⑥指定管理者モニタリングへの適切な対応
- ⑦「利用者満足度調査」の実施
- ⑧「地域参加支援に関する情報交換会」への参加（本年度前期は当センターが幹事団体）
- ⑨「7市・市民活動連絡会」への参加（本年度前期は当センターが幹事団体）
- ⑩ 専門機関との提携及びNPO経営支援アドバイザー派遣制度の活用
- ⑪大学、大学生との連携、交流の強化
- ⑫大学インターンシップ及び市内中学校職場体験の受け入れ
- ⑬支援センター視察・見学来館者の受け入れ、対応
- ⑭イベントへの参加・出展
- ⑮各団体、関係先講座、委員会等への講師、委員の派遣
- ⑯スタッフ教育、研修の実施

(12) 広報部計画

今年度も市民活動の情報センターとして、市民活動団体の活動を市民の方々に紹介するだけでなく、社会を取り巻く様々な課題をタイムリーにとらえ、そうした活動の中から市民や多様なセクターが、気付きや連携の糸口を得ることが重要な責務のひとつです。そのために広報紙「SUPPORT802」、メールマガジン「SUPPORT802 だより」を活用して、情報発信を行っていきます。

2020年度は、「広報紙制作に関する技術的スキルの向上および広報部内外へのスキルのナレッジシェア」「広報メディアのあり方の検討」を重点課題として活動を行いたいと考えています。

◆広報紙「SUPPORT802」について

- ① 団体のニーズにきめ細やかに対応した紙面づくり
相談機能や、各部門との連携を図りながら、団体のニーズに柔軟に対応できるような特集記事の選定を図ります。
- ② 市民活動の情勢・動向に照らし合わせた紙面づくり
2020年度も、特集記事や「さぼはち相談室」のコーナーなど、「読み物」としての広報紙の性格を活かし、寄せられた相談や、研修・イベント等への参加を通じ積極的な情報収集を進めていきます。
- ③ 広報紙製作プロセスの Facebook 等での配信
取材時の様子など、広報紙の製作プロセスをできる限り「見える化」し、どのような過程を経て広報紙が製作されているかを発信し、より関心を喚起することを目指します。
- ④ 電子版「SUPPORT802」の活用促進
広報紙「SUPPORT802」は毎号5000部を発行していますが、郵便料金値上げや消費税増税で印刷・発送費は高騰を続け、2020年度も郵便料金の値上げが予定されています。昨年度の「SUPPORT802」の印刷費・発送費は2018年度予算策定時と比較し年間約40万円の支出増となっており、今後値下げは当面見込まれないことから、印刷費・発送費の削減が喫緊の課題となっています。その方策の1つとして、ウェブサイトに掲載している電子版「SUPPORT802」（PDF形式にて配信）の周知を図り、紙媒体での配布を一部置き換え、経

費削減の可能性を模索します。

◆メールマガジン「八王子市市民活動支援センターSUPPORT802 だより」について

メールマガジンについては、広報部会において広報紙の制作についての議論に終始してしまい、内容や位置づけなどについて十分な議論が出来ていない状況にあります。「SUPPORT802」を補完するツールとして、SNS ではカバーすることの難しい情報発信のあり方を模索しながら配信を行います。

◆発信情報のチェック体制

広報紙原稿の読み合わせの機会を、製作プロセスに組み込んでいますが、日程調整において広報部スタッフが揃って出席することが難しい場面も見られました。

サイボウズ Office によるチェックは一定機能していると考えますが、センター内でも回覧しスタッフに簡単な校正をお願いするなど、チェック機能の強化を目指します。

(13) 啓発部計画

啓発部は、今年度も団体活動のステップアップを狙ったパワーアップ講座をはじめとした支援講座や市民の方に市民活動を知っていただくためのアクティブ市民塾など、多角的に市民活動を周知するためのプログラムを実施します。

また、センター内の他事業との連携を今年度も実施し、センターの総合力で団体を支援することを意識した講座を計画していきたいと考えています。

①アクティブ市民塾

今年度もアクティブ市民塾は、年 6 回を予定しています。団体の活動を体験することで団体への理解を深めることを主眼にしている講座のため、運営上、多人数を受け入れることは難しいですが、市民活動には馴染みのない方に参加していただくことが多い講座です。

アクティブ市民塾に出ることが活動のステップアップにつながるような団体、認知度は低いですが社会的需要があり市民に紹介したい団体、また、環境、文化、福祉など幅広い分野の団体を取り上げることができるよう計画を立てていきたいと考えています。

②実践講座（～スキルアップ研修～）

実践講座は、団体、市民を対象に NPO、市民活動に関する法や制度、課題、現況や新しい活動の情報提供を行う講座です。

昨年はコミュニティデザインをテーマにしましたが、今年度も多くの方に共感を得られるテーマを設定し、講師を招きたいと考えています。

③支援講座 1（～パワーアップ講座～）

昨年度は講座で学んだことを団体の活動に反映しやすいように、各回のパワーアップ講座の中でワークや団体のディスカッションができるような構成を一部取り入れました。

受講者にも好評だったので、今年度も引き続きパワーアップ講座の中で団体内の話し合いができるよう団体の組織基盤を強化テーマにした講座を全 7 回で実施することにより団体の組織基盤の強化を図ります。

④支援講座 2（～NPO 研修～）

支援講座は、団体のニーズや社会状況などに合わせて柔軟に対応できる講座です。

今年度はこれまでパワーアップ講座に組み入れていたなかでも、とくに広く、多くの団体が抱える課題をテーマとした講座を実施する予定です。

(14) 情報部計画

1. 支援センターホームページの改善、維持・改造

目標

NPO法人や市民活動団体の様々な要望に対応すべく、適切な情報をわかりやすく随時発信するホームページを提供していきます。安定稼働、十分なセキュリティ対策を担保したうえで、継続して、コンテンツの充実および使い勝手の向上に努めます。またシステムのメンテナンス等による停止もしくは障害情報などをタイムリーに発信する。システムの不備が発覚した場合は迅速な改修を行っていきます。

活動内容

①Web サーバーおよびメールサーバーの安定稼働

さくらインターネットへのサーバー移転後も、安定稼働を続けているが、万一、システム障害が発覚した場合はデータセンター、五大システムと連携して、迅速な原因解析、対処法の検討および指示、復旧作業の事前確認を行い、障害の影響を最小限に食い止めます。

②サーバーのセキュリティ対策

市からの J-LIS 情報を参考に、五大と連携して最新の Web サーバー環境を維持していきます。

③コンテンツの充実

現状の Web コンテンツに追加できるコンテンツ、需要が無いコンテンツの判断を行い、よりニーズの高いコンテンツの発信ができるよう改造を行っていく。

④省力化

これまでコンテンツのアップロード作業など人手作業が発生していた部分を、作業量を少なくするシステム機能強化を行います。

2. 【はちコミねっと】の保守および活性化

目標

NPO法人および地域活動団体による【はちコミねっと】の活用化を推進し、より多くの団体が情報を登録し、より多くの市民に届けられるよう努力します。

活動内容・・・団体への普及啓蒙および問い合わせ対応

①はちコミねっと団体向け講習会

主に新規登録団体、担当者が変更になった団体向けに操作方法を理解していただく講習会を定期的に開催します。

②はちコミねっと団体向け個別講習会

パソコン操作に不慣れな団体向けに、原則として3か月に1回実施する。ただし、団体から要求があった場合は随時実施します。

③市民企画事業補助金採択団体向け講習会を開催します。

④メルマガ会員の増加

チラシ、広報などとのメディアミックスで登録者数の増加を図ります。

⑤アクセス状況の把握と活性化

アクセス状況のモニタリングを継続します。

団体のはちコミねっとに掲載したイベント情報をもとに、広報紙 SUPPORT802 の NPO・市民活動イベント情報欄に掲載することにより、はちコミねっとへ投稿するインセンティブを向上させます。

⑥システムメンテナンスおよびベンダー対応

システムトラブルへの対応とベンダーへの問い合わせ、改善要求および改善仕様の作成を行います。

⑦次期元気 365 システム対応

次期元気 365 システムの機能を理解し、移行の可否、移行リスクおよびコスト等を、パーソルワークスデザインおよび市と連携しながら検討します。

3. 職場内 ICT 環境の整備

目標

①情報セキュリティの強化

近年、ランサムウェアなどの新たなウイルスの脅威が増していることなどから、高度な情報セキュリティレベルが求められています。また個人情報保護法の改正によりますます個人情報の取り扱いには注意しなければならなくなっています。こういうセキュリティ事故を起こさないための対策および市のセキュリティガイドラインの順守徹底を図ります。

②スタッフ作業効率の向上

グループウェアのさらなる活用で、職員間の情報共有、業務プロセスの自動化等の改善を図ります。

③IT インフラの整備

パソコン（市民への貸出機を含む）、ネットワーク（来館者 Wifi サービスを含む）、ファイルサーバー

活動内容

(1) 情報セキュリティ全般の強化

- ① 毎月の J-LIS 対応
- ② 市からの指示事項対応 パソコン管理台帳の整備など
- ③ ウイルス対策ソフトの更新
- ④ 業務データの保全
- ⑤ 個人情報・法人情報データの漏えい対策
- ⑥ 管理指定者向け情報セキュリティガイドラインの遵守およびパソコンとサーバーのセキュリティ関連の設定
- ⑦ 貸し出しパソコンの整備、フリースペース設置パソコンのセキュリティ管理
- ⑧ Wifi 設備の安定稼働
- ⑨ LAN の管理
- ⑩ ファイルサーバーのデータ保全と管理

(2) パソコン性能改善によるスタッフの作業効率の向上

Office2010 が稼働しているパソコンを全て Office2019 に置き換える

(3) サイボウズ Office の有効利用を図る

- ① サイボウズ Office 管理者業務
- ② 新スタッフ等へのサイボウズ導入教育

(15) ファンド部計画

◆事業目的

- (1) 団体の事業運営基盤の強化、および継続的な事業運営ができるよう支援します。
 - ・物品の支援
 - ・人財の支援（プロボノ）
- (2) 団体の情報開示を支援します。

団体との信頼関係を大切に事業遂行いたします。

◆計画

(1) 団体訪問

①重点項目

団体アンケート調査を行い、団体のニーズ、抱えている課題、支援センターに対する期待(注文)を整理し対応策を検討します。
団体訪問時はアンケート結果を報告し、団体の意見を拝聴することからスタートします。
1WAYの提案ではなく、質問・傾聴を中心とした2WAYコミュニケーションで進めます。

これらを通じて相互信頼に基づく「顔の見える関係」維持向上の基本と考えます。

②具体策

目的:「顔の見える関係」の維持向上

対象団体A:CANPAN★★★以上団体、★★団体

対象団体B:プロボノ支援団体(希望団体)

内容:情報提供は最小限とし団体の話の傾聴・質問に徹します。

情報共有⇒合意形成⇒計画立案⇒支援⇒課題解決・振返りのステップを踏みたいと考えています。

- ・情報共有～相互に情報を提供し共有します
- ・抱えている問題があれば傾聴、質問で共有します
- ・合意形成～傾聴・質問で問題の合意をとります
- ・計画立案～支援できるか確認した後に解決イメージ、スコープ設定、支援策を提示します。詰めの質疑応答、計画に合意します
- ・支援実行～プロボノ、その他支援センターの支援策を実行します
- ・解決・振返～プロセスを振り返り次につなげます

(2) 企業・大学訪問

①重点項目

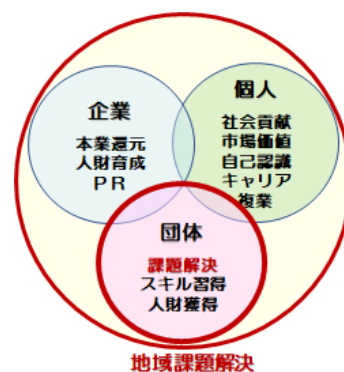
環境変化(テクノロジーの進化、グローバル化の進展、人口構成の変化と長寿化、社会の変化、エネルギー・環境問題の深刻化)そして人生100年時代の中にあってビジネスパーソンにとっては、キャリアオーナーシップに基づいた自律的なキャリア形成とそれを支援する職場環境の一層の充実が不可欠です。

誰もが「自分はどうなりたいのか」を選択しなければならない時代、自分で自分を制御することが求められるマルチステージ社会にあっては、時代の変化に対応して変化し、行動することのできる変身資産が最も大切とされています。

異なる専門分野、年齢、性別、価値観、企業文化のメンバーからなるプロジェクト活動の体験であるプロボノは、キャリア開発の基盤としての自己理解、市場価値、無形資産(生産性資産、活力資産、変身資産)を知る実体験の場でもあります。

そのために訪問の前に、団体の抱える課題解決、社会貢献は第一義ですが、プロボノワーカーにも焦点を当てた活動をしていければと考えます。企業・大学の人材育成・キャリア開発部門の方々の理解を得、個人のキャリア開発をお手伝いできないか一緒に考えていければと思っています。

人財支援プレゼン資料を改版します。



②具体的施策

目的:プロボノ活動を知ってもらい「企業・社員。団体にメリットありそう」と感じてもらう
物品支援活動(寄付依頼)は紹介のみ

目標:1,2企業・大学/期

内容:キャリア開発の観点から提案

対象:三多摩地区企業 or 大学

◆物品の支援

(1) 重点項目

昨年度の寄付件数は一昨年より下回りました。そのほとんどが一般市民からお問合せ頂きご寄付いただきました。これらは、企業訪問による物品寄付協力依頼、「ゆめおりファンド(物品支援)」の認知不足にあると考え、「ゆめおりファンド」の認知度アップを目指します。

- ①はじめてお問合せ頂いた企業様もあったことから、訪問先企業の範囲(地域・業態・規模)を広げます。
- ②昨年は市民の方々からお問合せをいただきました。そこで、在庫品にはない団体ニーズにリアルに答えていただくマッチングルートとして活用する方法を検討していきたいと考えています。
- ③企業様のレイアウト変更、事務用什器の更新、廃棄等の情報を事前に知る方法、ネットワーク等も検討しておく必要があるかと考えています。

(2) 具体的施策

- ①寄附物品の受領と頒布
現時点で1,2件ご寄付がほぼ確定している企業様対応と頒布会を行います。
- ②企業・大学訪問
物品支援プレゼン資料を改版し、企業・大学を訪問します。
訪問先、訪問はセンター他部門と連携して行います。
- ③関係性維持
今までご寄付いただいた企業様を中心に、支援センター広報などを郵送し、関係の維持に努めます。
- ④団体の物品ニーズと市民の物品マッチングルートの検討
マッチングの仕組みを種々の観点から検討します。

◆人財の支援

(1) 重点項目：

昨年はプロボノ開始後4年目で、支援件数4件と目標を大きく上回りました。これは、プロボノ説明会、広報紙、ファンド部レポートをはじめとしたPR、実績がスタートアップを含む団体に伝わり、プロボノのメリットが認知されてきたためと考えています。

今年度は団体にプロボノを活用していただくために次の基本的な考え方をベースに取組んで参ります。

- ①プロボノの実績を重ね、団体からの信頼を得る
- ②団体が困りごとを相談しやすいよう関係の質を高める
- ③プロジェクト進行ノウハウの更なる習得
- ④課題解決に熱心に取組むプロボノワーカー支援の強化
- ⑤ファンド部レポート、SNS活用した活動実績の紹介
- ⑥他中間支援組織との情報交換

(2) 具体的施策

- ①既支援団体のフォロー
成果物提出後の団体の活用状況とフォローアップ
- ②常時プロボノ支援
団体が必要な時に必要な支援ができるプロボノを理想に努力を重ねます
- ③中期プロボノ
支援2件以上／実施
- ④プロボノ説明会の開催(30名程度)
「プロボノとは何か」「実績」を紹介し、中期プロボノの支援団体、プロボノワーカー募集につなげます。
- ⑤企業連携(企業単体チーム編成の提案、チャレンジ)

プロボノ体験報告会・情報交換会

⑥情報収集

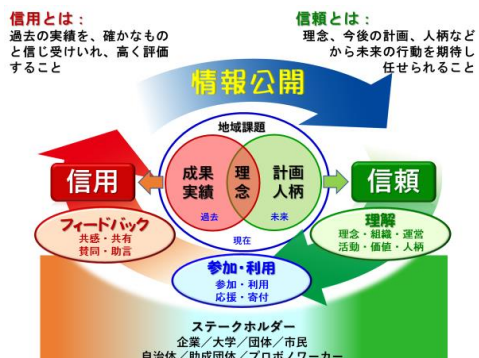
他中間支援組織・行政のプロボノ情報収集(訪問)

各種セミナー等参加

⑦プロボノワーカー情報交換会

◆団体情報開示の支援

(1) 重点項目



昨年検討した「信用と信頼を得るための情報公開」をベースに団体の情報公開のツールとしてのCANPAN登録と認証レベル★★★化促進に取り組んで参ります。

団体にゆめおりライブラリーなどゆめおり認証団体のメリットを知ってもらうよう検討します。

(2) 具体的施策

①CANPAN登録・支援(★★★取得)説明会

毎月1回定期的な説明会を行います。

団体の必要に応じて登録支援します。

②ゆめおりファンド認証団体(★★★以上)

物品支援の際にそのメリットを知ってもらえるよう工夫します。

「ゆめおりファンド認証盾」贈呈対象団体が増加していることもあり今後の対応を検討します。

◆その他

ホームページ検討

現ホームページ活用促進を目指すようワードプレスによる勉強会を行います。

(16) 地域・事業連携部計画

市民活動支援センターの目的の柱の一つである、八王子の市民活動団体の事業連携強化を目指します。

①NPO フェスティバル事業

昨年度は、NPO フェスティバルを JR 八王子駅南口のサザンスカイタワー東側広場で開催し、八王子の市民活動団体 31 団体が結集し一般市民への活動紹介などが実施されました。このフェスティバルが目的としている、一般市民への団体アピールと同類のイベントは他にあまり見受けられないこともあり、その意味では貴重な存在として NPO フェスティバルの市民への定着を図ることが肝要です。

以上の理由から、本年も継続して NPO フェスティバルの開催を計画しています。昨年度は 9 月初旬の開催でしたが、暑いなかでの開催となり、開催時期を 10 月下旬に移行する予定です。イベント規模は昨年と同様といたしますが、参加団体などは、本年改めて募集をいたします。多くの団体の出展を期待し、また、このイベントへの参加を契機に、団体催しへの参加人数の増加や会員増に繋がることを期待しています。

②交流会事業

今年度の新規事業として、交流会事業を実施いたします。この事業の目的は、NPO 等の市民活動団体の連携を図り、地域での複合的な市民活動の活性化を促進することです。また行政、社協、財団等の公共を担う市内の各組織に携わる方々も招き、市民協働のための関係構築のきっかけづくりを図ることも視野に入れていきます。

参加する団体の分野を数分野に限定し、それに関係する行政職員などの参加を図り、その分野で当面している課題や、将来構想などについて、深い討論ができる場となり、これからの市民活動の活性化に寄与しようとするものです。

③ハンドブック事業

市民に市民活動をより知ってもらうために市民活動団体のそれぞれの情報を網羅する冊子の作成を企画します。これにより団体の活動紹介を行い、市民が活動へ参加するためのきっかけづくりを企図すると同時に NPO の基礎知識等、活動の支援となるような NPO ハンドブックを目指します。

2. はちおうじ志民塾

第 5 期より市から運営を受託している「はちおうじ志民塾」は今年度も開講予定です。今期は 12 期となります。

なお毎年 7 月に開催しているプレ講座としての「オープン志民塾」はコロナウイルス感染拡大防止対策のため、今期は開催しない予定です。

① 開催時期・開催回数 9 月開講。2 月終了の全 16 回の講座を予定しています。

はちおうじ志民塾は第 1 1 期生が卒塾し、志民塾卒塾生総数が 2 4 5 名となりました。

② カリキュラムの内容

講座内容については「自分を知る」「地域を知る」「市民活動・課題解決方法を知る」の categories に分類しカリキュラムを組んでいます。内容については市民活動、NPO への導入、地域の活動担い手育成には十分な内容と好評をいただいておりますが、主催である市とともに、より受講生のニーズに即した企画やカリキュラムへと適宜見直しを行い、受講したい！と思う魅力あるプログラムにしていきます。

③ 「プレ志民塾」の開催と広告の充実

志民塾の紹介と広報もかねて毎年 7 月に開催している「プレ市民塾」はコロナウイルス感染拡大防止のため今年度は開催見送りが決定しました。広報に関しては、今年度も市の協力の下に、はちバスや駅前地下通路にもポスターを掲示する予定です。

④ 卒塾生のフォロー体制の充実

2 4 5 名の卒塾生のフォロー体制の整備にも協議会、支援センターはじめ関係団体や O B の協力をいただきながら更に取り組んでいきたいと思っています。

⑤ 事務局の充実

受講生の問い合わせやニーズに、これまでも迅速かつ的確な対応を心がけていますが、今後も事務局体制の充実を図っていきます。

3. 協議会自主事業

(1) 総務部・事務局

協議会は近來各種活動を活発に繰り広げてきました。今年度は、支援センター事業の指定管理者継続申請が大きなプロジェクトとなります。支援センター事業の見直しとあわせ、協議会の中・長期的計画検討も必要です。自主事業としてのわくわく広場の運営、お父さんお帰りなさいパーティー実行委員会の運営や女性・若者・シニア創業サポート事業窓口等も重要度が増してきています。事務局はこれらの活動のかじ取り役として人員、組織の見直しを行います。

1) 会員管理

会員管理の課題としては①会員を増やす、②会員に協議会活動に参画していただく、③会員とのコンタクト機会を増やす等があります。

① 会員増強

・協議会が関連している講座・イベントの参加者の中で協議会に関心をお持ちと思われる

方に協議会入会をお願いしています。各イベントで資料配布する際、協議会入会申込書を同封するなどの対策を行い、会員増強を進めています。

- ・昨年度は、あたらしく JR 八王子駅南口総合事務所において開催される「いきいき活動展」に参加し、協議会の活動を広報いたしました。今年度も同活動展への参加が予定されており、会員募集を初めとする、協議会活動への賛同を進めて参ります。

②協議会活動に参画していただく

協議会の自主事業の多くは、実行委員会方式をとっています。この場合は、協議会の理事以外の会員にプロジェクトに参画していただく、イベントを応援していただく等の絶好の機会となります。また、いまだ協議会の会員でない方々が実行委員として参画される場合もあります。この機会を積極的に活用して、協議会への会員の参画を促進致します。

③団体会員とのコンタクトルート

各種イベント開催時に参加意志の確認などにおいて、理事が担当を決めて電話勧誘をしています。担当する理事を固定化し、対象団体のイベントに参加する等により、同じ相手とコンタクトすることにより、親しみを深めたいと考えています。

2) 新年会員交流パーティー

従来通り連続 10 年会員在籍者への感謝状贈呈、わくわく広場において戴いた寄付金を基に、市民活動団体に支援金を贈呈いたします。また、多額寄付者への感謝状贈呈を行います。多数の会員に参加いただけるような工夫を検討します。

3) 西武信用金庫助成金窓口

この窓口業務は、市民活動団体が獲得できる助成金の申請サポート役として機能し、また同時に NPO の様々な活動内容が把握できる貴重な場となっていました。昨年度は、事業が縮小され西部信用金庫へ直接応募する形態で実施されました。本年度の実施形態は、未定ですが、協議会が窓口を務める規模に回復した場合には積極的に参画し、八王子の市民活動団体の助成金獲得をサポートする計画です。

(2) 広報部

協議会だよりの発行、ホームページの管理、その他適宜パンフレットやチラシの発行登録団体の広報支援の広報全般を担当します。

①協議会だより

毎偶数月（6 月、8 月、10 月、12 月、2 月、4 月）に発行予定です。

会員の活動紹介など、会員と密着し協議会に親んでもらえるような紙面作りに取り組みます。より多くの方に手に取っていただくように現在の配布場所のほかに、病院の待合室や銀行のロビーなど多くの市民が利用する施設での配架のお願いを計画しています。

今後の紙面構成についてのアンケートを実施し編集の参考にする予定です。

②ホームページ

ネット環境が整備されホームページから協議会の情報を取得する会員が増えているため、迅速な内容更新に努め会員の利便性を高めます。

協議会だよりでは掲載しきれないイベント報告や団体紹介、また、各事業とのリンクで必要な情報を集約し閲覧頻度の高いホームページになるように更新していきます。

(3) 交流推進部

①お父さんお帰りなさいパーティー（略称オトパ）

令和 2 年度は、「お父さんお帰りなさいパーティー（オトパ）」の名称を令和 3 年度には新たな名称にするため、また同時に実施内容の再検討のため、早期に実行委員会を立ち上

げます。

名称や内容を継続するか、全くイメージを変えるか実行委員会で考えて楽しいものにしてゆきたいと計画しています。

また、本年度は、労政会館にて2021年3月13日（土）に開催することが決定されています。実行委員会を充実し宣伝方法の多様化も検討実施します。

②八王子いちようまつり「わくわく広場」

本年度は、いちよう祭り「わくわく広場」を11月21、22日に運営いたします。

(4)地域ネット部

活き生きハンドブックのデータ更新は引き続き行います。この事業は八王子市の「八王子市地域包括ケア情報サイト」とリンクで繋がれており、しっかり対応します。本年度は、このデータの更新のために、また新規に登録できる団体の開拓のために、支援センターの地域・事業連携部の事業と連携して、団体訪問などを各理事が行っていく計画です。

新しい「共生社会の確立」を目指した自治研センターと共同開催のシンポジウムも、例年通り実施する計画です。また、自治研センターと共同して八王子ビジョン2022の先を展望する八王子の将来像などに関する勉強会を持つ計画です。

(5) 女性・若者・シニア創業サポート事業アドバイザー

昨年度は、創業セミナーを年4回実施し、従来年1回の頻度から大幅に開催回数を増やしました。今年度はさらに年5回のセミナー実施を計画しています。また、新規事業計画の作成相談やハンズオン（伴走）支援においては、事業経営にノウハウを持った理事の積極的参画を進めていきます。

(6)政策研究企画部

令和2年以降しばらくは新型コロナ禍の甚大な影響が及ぶものと考えて柔軟で実施可能性の高い事業計画を立てる必要があります。

今年度は、

A)全世界の自治体・企業・市民団体が取り組みを始めているSDGsの導入

B)「幸福学」の適用

を基本理念とし、協議会および支援センターの活動を再構築することを計画します。

① 基本理念 SDGs+幸福学 に基づく市民活動支援スキームの構築

国連が提唱する2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットから構成されるSDGsを八王子のまちづくりとして再定義します。SDGsは課題解決型の「持続可能な」「誰一人取り残さない」社会を構築しようとしています。

現在、貨幣に代わる新しい社会の価値として注目されている指標が「幸福度」です。本人の遣り甲斐・生き甲斐・達成感に類する欲求である「承認欲求」と「自己実現欲求」を満足させるよう「幸福度」を上昇させることが、これからの社会では求められます。幸い、当協議会の岡崎理事長は幸福学の専門家でもあり、八王子の市民活動支援の「経営」を、SDGs+幸福度という基本理念にしたがって再構築していくことを本年の目標の一つに掲げます。

② 行動規範 活動の「可視化」とPDCAサイクルによる事業改善

この2年間は、理事会および三役会の議事報告の迅速化・見える化として取り組んできました。同時に、明らかになった課題が協議会と支援センターのコミュニケーション不足でありました。これを課題として取り組んだのが、協議会と支援センターの連携・協調でした。岡崎理事長、山中事務局長、浜野センター長および関係者のたゆまぬ努力により協議会と支援センターの協働事業が増え、連携・協調が前進しました。今年度は、

連携事業の効果を改善し、協議会と支援センターの協調体制をよりスムーズにしていくことに取り組みます。

③ **重点活動 「プロボノ」(セ) と「女性・若者シニア」(協) の連携・融合**

①と②を実現する具体的な活動として、センター事業の「プロボノ」と協議会事業の「女性・若者シニア」を狭義にとらえるのではなく、広義として「プロボノ」活用と「女性・若者シニア」の起業支援・経営支援に取り組むことが重要です。

センター事業と協議会事業によって構成される個別事業の活動を再構築して可能な限り、市民または市民団体向けに提供することに取り組みます。またその実現に際して、協議会理事やセンター職員のスキルアップ事業も積極的に取り入れていきます。

また、従来はフェイスツーフェイスであった多くの事業が令和2年の少なくとも前半は困難な状況にありますが、これを解決するための ICT 活用も積極的に取り入れ、市民活動支援に役立てることも必要不可欠です。これにより、空間を超えて意見交換や情報伝達が可能になり、結果として時間節約にも役立ちますので、市内の多種多様な市民活動団体に対して積極的な導入支援も実現していきます。さらに ICT 活用の一手段としてデータサイエンスを導入した各団体の事業に対する PDCA サイクルによる改善も実施していく予定です。